

6 (藤沢地域) プレゼン発表

【藤沢地域の課題 (概要)】

【課題解決方法】

【プレゼン資料】 / 【説明者の発言】

6 (藤沢地域) プレゼン発表

※詳細は末項「(別表) 個別事業一覧」参照願います。

【藤沢地域の課題】

- 藤沢市の引きこもりは人口比で4千人弱いるとされる。
- 引きこもりの支援は、次の1～3のステップに分けて考える必要がある。
 - 1 外出し、体を動かし生活リズムを整える
 - 2 集団行動を行う
 - 3 職場が求める生産性で働く

【課題解決方法】

- ⇒農業はステップ1と親和性が高く、非常に有効である。また、自治体、NPO等との協働により、ステップ2、3に繋げていく必要がある。



令和3年度 地域の支え合い仕組みづくり事業
中間報告会（令和3年10月29日）

引きこもりへの支援分野

新しい支援様式 農園を引きこもりの 活動場所に！事業

藤沢市農ネットワーク

1

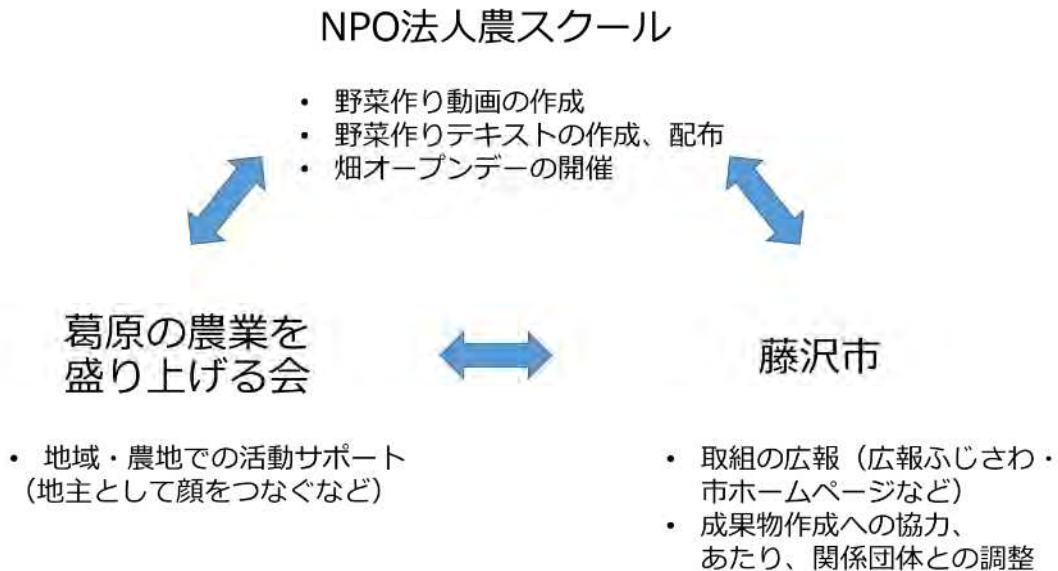
【説明者の発言】

藤沢市農ネットワークより中間報告させていただきます。報告者NPO法人農スクールと申します。よろしくお願いいたします。

今回は、引きこもりの方への新しい支援といたしまして、農園を活用した支援事業について、報告させていただきます。

はじめに

藤沢農ネットワーク 構成団体と役割



2

【説明者の発言】

まず初めに、藤沢農ネットワークというのがこちらに記載してされてある三つの団体で構成されておりますので、それぞれの役割について簡単にご説明します。

まず、一番上のNPO法人農スクールが引きこもり支援の一環としまして、昨年10月から野菜づくりの動画やテキストの作成、あるいは農業体験会の畑オープンデーの開等を行っております。一つ一つ具体的な取り組みの内容や進捗については、後程のシートで説明させていただきます。

ページ右下の藤沢市が農スクールの活動のサポート役を担い、広報ふじさわや市のホームページ等で取り組みの広報、あるいは、成果物作成の協力や関係団体との調整等を行っていただいております。

ページ左下の葛原の農業を盛り上げる会は、農スクールが現在使用している農地の地主様で構成されていまして、地域や農地での活動のサポートということで、主として顔をつなぐ役割を担っていただいております。

第1 概要

背景

ウイルスの影響で居場所事業などがストップ

これまでの支援体制の特徴

- ・ 室内
- ・ 集中
- ・ 当事者が現地まで移動

→感染リスクの高い形

【説明者の発言】

まず、事業背景についてお伝えしますと、コロナ禍以前の従来の引きこもり支援体制は、室内の場所に大勢の方が始まって多人数で行うというやり方が主流でありました。

ただ、こういったやり方の継続が新型コロナウイルスの影響で困難になっておりまして、支援を求める人に対して手が行き届かかなくなっているという現状があります。

第1 概要

事業目的 農園を使った分散型の支援体制を作る

これからの支援体制の特徴

- ・ 室外
- ・ 分散
- ・ 支援者が農地まで移動
- ・ インターネットなどを使いやりとりを行う

→感染リスクの低い形

→ウイルス感染拡大時、活動を継続しやすい



【説明者の発言】

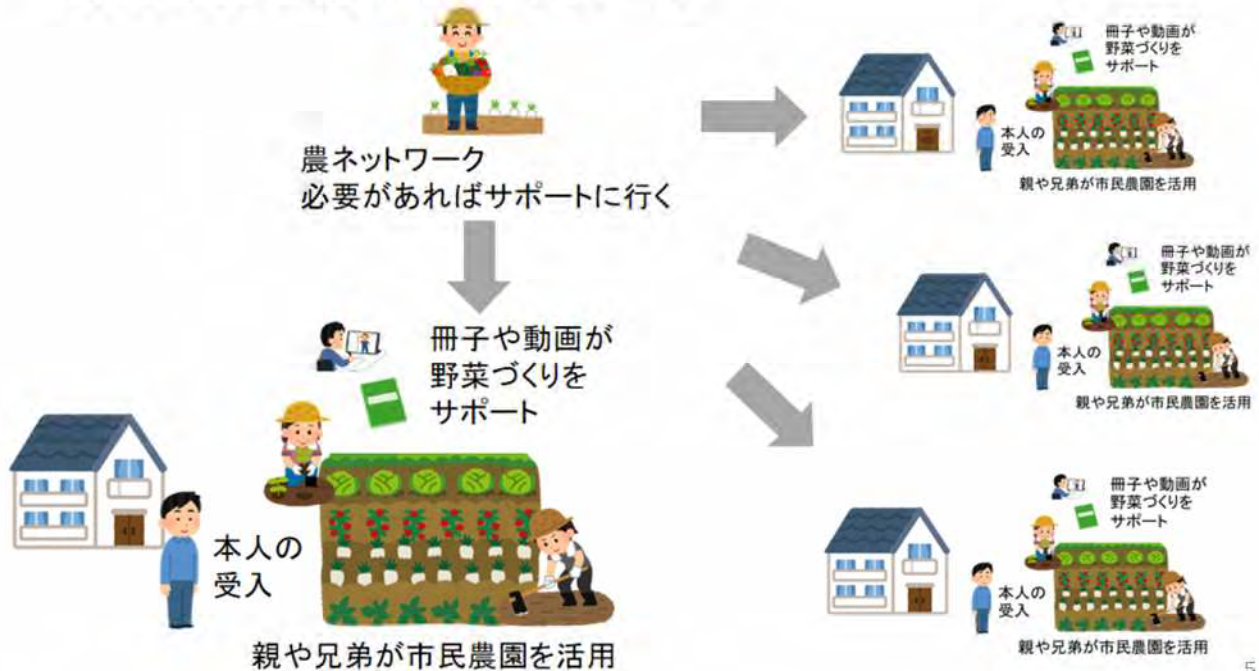
そこで、従来のひきこもりの支援に代わり新たな支援体制ということで、今回は、農園を活用した分散型の支援体制を提唱させていただきたいと思います。

具体的な特徴としましては、農作業ですので室外に人が分散して集まって行うことが大きな特徴になります。

また、座学に関しても従来のように一つの室内の人数が集まっていうのではなく、インターネット等オンラインを使ってやりとりを行うことで感染リスクは低くなりますので、コロナウイルス感染拡大中の活動を継続しやすいというのが大きなメリットになってきます。

第1 概要

分散型の支援体制のイメージ



【説明者の発言】


こちらのイメージ図では、（本事業の支援者は）農ネットワークからのサポートに加えて、当事者のご家族ですとか身の回りの方を引きこもり支援の方を想定しています。

そういった支援者の方が、野菜づくりに関する写真や動画、あるいは、市民農園を活用することで、分散された様々の場所で誰でもどこでもいつでも支援体制を提供できるという環境を目指していくというのが、今回目指している分散型の支援体制となっております。

第2 進捗状況

事業報告 1 農業の始め方テキスト作成、配布

藤沢市と協力して、
市民農園や、居場所
事業「地域の縁側」を
紹介するページを作成

 野菜づくりを始めるための情報や支援場所の情報が載った
テキストの作成(2020年10月～2021年3月)、配布(2021年4月～9月)



2500部印刷
1300部ほど配布

例：
神奈川県共生推進本部室 10部
藤沢市農業水産課 125部
藤沢市地域共生社会推進室125部
メンタルホスピタルかまくら山 10部(鎌倉市)
さかい内科・胃腸科クリニック 250部(鎌倉市)
ココロまち診療所 10部(藤沢市)
慶應藤沢イノベーションビルレッジ20部
藤沢市地域の縁側 各1部
くまもと湘南館 250部

【説明者の発言】

ここからは昨年度からの実績として事業報告させていただきます。

まず初めに「農業の始め方テキスト」ということで、これは『農の力で一步踏み出すブック』というテキストを藤沢市と共同で作成いたしました。


主な内容としては、野菜づくりの始め方についての紹介、本格的な援農や就農のやり方についての紹介、あるいは、藤沢市にある市民農園、地域住民の方を対象にした居場所である「地域の縁側リスト」の紹介等を示しております。

こちらを2500部ほど作成しまして、神奈川県共生推進本部室や、藤沢市の農業水産課、地域地域共生社会推進室、あるいは、こちらのシートに記載してあるその他の営業、医療現場等で、約1300部ほど配布を行っております。

第2 進捗状況

事業報告 2 農業の始め方HP・動画作成

藤沢市ホームページ
にもリンクをはり、
広く周知を行う（予定）

 野菜づくりを始めるためのHP・動画の作成(2021年4月～10月予定)



・HPから動画にリンク



・市民農園の場所を調べられる地図



【説明者の発言】

報告の二つ目になりますが、農業の始め方ということでホームページと動画の作成を行っております。こちらはまだ動画の作成が完了はしておらず途中段階の状態です。

農業をしていくには、道具の用意、土づくり、野菜の種類に応じた種まき～収穫までいろいろな工程がありますので、そういった一通りの作業項目を細分化した動画を作成しております。

こちらは藤沢市のホームページにも、リンクを貼って、今後、広報活動を行っていくといった予定になっております。

第2 進捗状況

事業報告 3 畑オープンデーの開催



引きこもり状態の方の周辺の方を対象にした
農業体験会・相談会を実施(2021年6月～2022年3月予定)

家にひきこもりがちな方
そのご家族、周りの方、
畑で野菜づくりに触れてみませんか？



Facebook post content: 畑で野菜づくりに触れてみませんか？ 家にひきこもりがちな方、そのご家族、周りの方を対象にした農業体験会・相談会を開催します。日時：2021年6月28日(日) 10時～12時。場所：農学校(〒411-0001 静岡県浜松市東区農学校)。参加費：無料。お問い合わせ：053-441-1164



広報ふじさわやFacebook広告などで広報

【参加者】

6月28日	7人
7月26日	6人
8月30日	3人
9月27日	8人
10月25日	9人(予定)

息子さんとお母様で2人で参加された方
参加後農スクールに通うことになった方
「知り合いに引きこもりの方がいて冊子を渡しました」とおっしゃっていた方 などが参加

【説明者の発言】

報告三つ目としまして、農業体験会と相談会である「畑オープンデー」を開催しております。こちらはご家族や身の回りにひきこもりの方がいる方に向けて、実際畑にお集まりいただいて農作業を通じた体験会や相談を行っています。

こちらは、畑での居場所づくりや支援活動を始めるという最初のきっかけづくりということで、月一回実施しております。

こちらは広報ふじさわやFacebook広告等で、広報を行っており、これまで月一回の5回行って延べ33人参加いただいております。

第3 今後の取り組み

新たに見えてきた点・課題

新たに見えてきた点	例
オープンデー参加後、次のステップとなる場を用意しておくことが重要	→ ・毎週開催のもやい畑※につながった例 ・鎌倉市と農スクールの共同開催プログラムに興味を持たれた例 ・農スクールに通うことになった例
オープンデーは体験会として募集しているため、大勢で集まる場に抵抗のない方が参加する傾向にある	

※もやい畑：藤沢市と、認定NPO法人自立生活サポートセンターもやいが協働で取り組んでいる、畑を通じた居場所づくり事業。毎週木曜日に実施。

課題	対策
いかに次のステップを増やせるか 農業に興味を持った人に対して、 農業に関わる方法を周知してきた	→ トレーナー(農業を通じた自立支援プログラムを運営できる人)を各所に増やす
今後、農業を支援活動として活かす 人がいる場所を増やすことが重要	トレーナーの存在が、次のステップに進める人を増やす事につながる

9

【説明者の発言】

三つの事業の進捗状況を踏まえて、新たに見えてきた点というのが、先ほどのスライド8でありました「オープンデー等に参加した後の、次のステップとなる場を用意しておくこと」が重要だということです。スライド右上の例のところにあるように、その次のステップとは何かということで具体例を三つほど記載しております。

まず、一番上の「もやい畑」は、藤沢市と認定NPO法人「自立生活サポートセンター・もやい」が共同で取り組んでいるもので、毎週実施している畑を活用した居場所づくり事業になります。また、月1回実施している鎌倉市と農スクールでの共同開催プログラムや、働きづらさを抱える人に対して農業を通じた就労支援事業としての農スクールといった、これらのステップが考えられます。

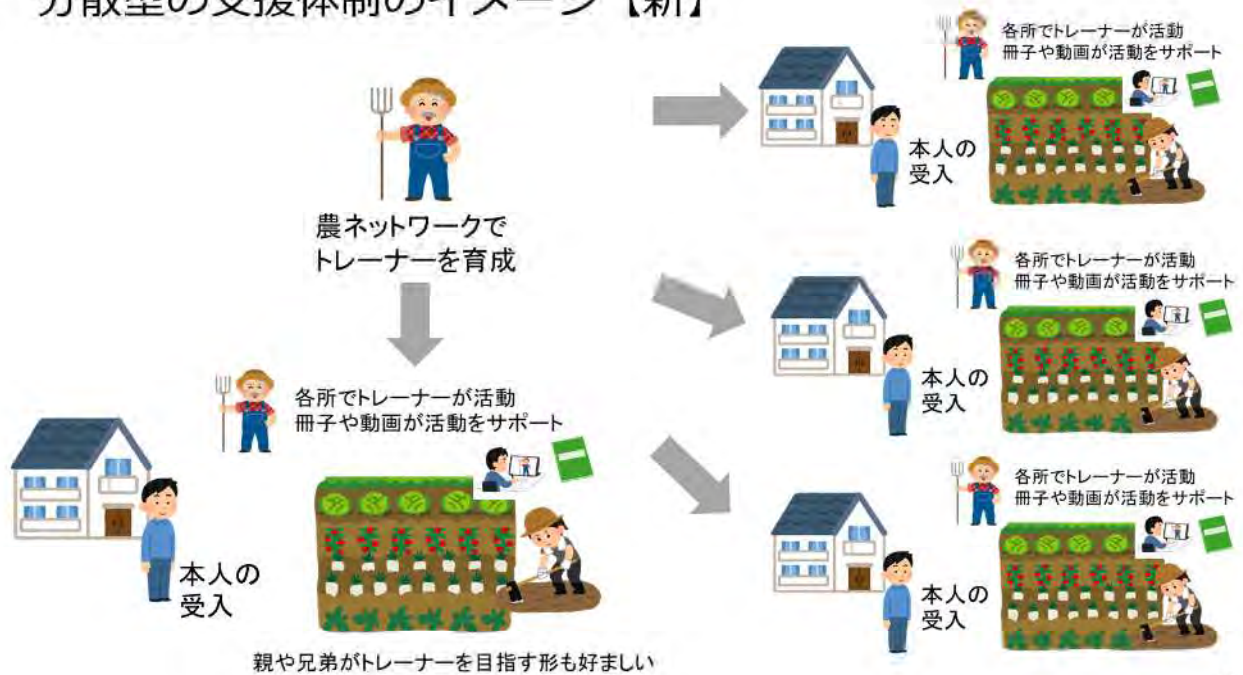
こういった、次のステップに移行していただく事を増やしていくということが今後重要になっていく、と考えております。

これまでの課題としては、「畑オープンデー」のようなイベントを単発の取組みで終わらせないために、いかにその次のステップの場所とその担い手をふやしていくかということが考えられます。これまでは野菜づくりのテキスト、動画等で興味を持った方に対して、どういった農業への関わり方があるかという事をお伝えしていくことがメインでした。

しかし、今後は、担い手となる方、ここでは「トレーナー」として定義し、農業を通じた自立支援プログラムを運営できる人を各所に増やしていくことが重要だと考えます。そういったトレーナーを育成することに、来年度以降は比重を置いていきたいというふうに考えております。

第3 今後の取り組み

分散型の支援体制のイメージ【新】



【説明者の発言】

最後にこれまでの事業活動を踏まえ、新たなイメージ図になってくるのですが、引きこもりの方への支援の担い手となるトレーナーを育成して、各地で活躍していただくことで、より広い範囲の支援というのが可能になると考えます。

そのトレーナーとして、「これまでに就労支援の経験がない農業者の方」ですとか、あるいは反対に「これまで農業経験がない福祉の従事者の方」、この両者それぞれのアプローチの仕方が異なると思いますので、それぞれの方を対象にした育成というのが今後必要になってくるかと思えます。

そのために、次年度は、オンライン講習会と畑での実技の講習を中心としたトレーナーの育成講座というのを実施する予定であります。

以上になります。ご清聴ありがとうございました。

7 (藤沢地域) プレゼン後の 質疑応答

- (1) 畑オープンデーについて
- (2) トレーナーについて
- (3) 行政の協働について
- (4) 藤沢市の引きこもり支援について
- (5) 自走化について

7 (藤沢地域) プレゼン後の質疑応答

(1) 畑オープンデーについて

Q1-1

パンフレットを作り広告もしているが、実際にオープンデーを開催するにあたり、想定していた参加人数はそもそもどれぐらいだったか？目標人数に届いているのか？

A1-1

- ・各回は6人から10人程度の参加者という想定である。
- ・目標には届きつつある。

Q1-2

当事者の周辺の方も対象としているが、ご本人に繋がりそうな感触というのは、今の時点でどうか？

A1-2

- ・実際に引きこもられていた方も参加している。
- ・当事者の周辺の方に何うと、「外に出てくるにはちょっと時間かかるだろう」という方もいれば、「次チャンスがあればちょっと一緒に声かけてみよう」というような状態の方もいる。

7（藤沢地域）プレゼン後の質疑応答

(2) トレーナーについて

Q2

何人ぐらい養成して、どれぐらい展開するか？

A2

- ・まず10名ほど育成できればよい。
- ・来年度、概ね10時間から20時間ぐらいで提供できる講座の提供を行う。
- ・福祉の知識がある方だと農業の知識だけでよく、農業の知識がある方だと福祉の知識だけでよい。受講生の知識と経験に合わせた講座を用意する。

○アドバイス

- ・ある程度ちゃんと任せられるような方になっていないと、それこそ逆効果というところもあると思う。今まで農スクールとしていろいろ経験されてるところを活かしていただきたい。

7（藤沢地域）プレゼン後の質疑応答

(3) 行政の協働について

Q3

行政の視点から、特に畑オープンデーの取組みを、どのようにサポートし連携強化をしていけるかコメントをいただきたい。

A3 (1/2)

(藤沢市)

- ・藤沢市地域共生社会推進室は引きこもりの方々からの相談機関である。
- ・生活困窮者支援の相談にて関わっている、いわゆる引きこもり状態の方々何人かに、当事業についてお知らせしている。
- ・就労準備支援事業とコラボしながら、就労準備以前の支援も含めて、農のフィールドを提供できるような機会と考えている。

(協働体制)

- ・社会福祉協議会のコミュニティソーシャルワーカーをパートナーとして、農福連携等の事業をいろいろと一緒に取り組んでる
- ・藤沢市と藤沢市社会福祉協議会では、家族会支援も行っている。

7 (藤沢地域) プレゼン後の質疑応答

(3) 行政の協働について

Q3

行政の視点から、特に畑オープンデーの取組みを、どのようにサポートし連携強化をしていけるかコメントをいただきたい。

A3 (2/2)

(適切な支援に向けて)

- ・外に出て農作業するというのは、引きこもりの支援の段階では、ある程度ステップアップした段階と考える。
- ・ブックの活用や、プランターを使って自分でやってみようとか、市民農園を使ってみようとか、ご自身やご家族と一緒にできるような外出の少し前段階の啓発も行っている。

7 (藤沢地域) プレゼン後の質疑応答

(3) 行政の協働について

○所感

- ・農福連携や家族支援の話も参考になり、とても有効だと思う。
- ・テキスト作成をして2500戸配布・頒布されたことも、このコロナの状況で手元に来るのはすごくいいことだと思う。
- ・動画作成されて、市民農園のリンクを張られていることもすごく充実してきていると思う。
- ・畑オープンデーが唯一人と触れ合える場があって、少し道筋が見えるという形になっていて、大切な取り組みだと思う。
- ・やはり難しいところもあって、体験会として募集してるので大勢で集まる場に抵抗のない方が参加するというコメントがスライド9についていたりするように、現場を仕切っていくことは、なかなか難しいところがあると推察される。
- ・この辺り、様々な経験のある方が入って、行政が今後の連携の仕方が見えると、もっと良くなると思う（農福連携の「農」のところは今少し見えてきているが、「福祉」のところでももう少し形が見えるとよい）。

7（藤沢地域）プレゼン後の質疑応答

(4) 藤沢市の引きこもり支援について

Q4-1

引きこもり支援の新たな選択肢として農園を活用しようということだが、今、藤沢市で行っている引きこもり支援の繋ぎ先はどんなところがあるか？

A4-1 (1/3)

(藤沢市)

- ・まず、地域共生推進室自体が自立支援相談窓口である。

(協働)

- ・藤沢市の社会福祉協議会の方でも同様な形で自立相談の窓口がある。
- ・ボランティア活動へつなげるのは社会福祉協議会の方が得意である。

⇒次ページへ続く

7（藤沢地域）プレゼン後の質疑応答

(4) 藤沢市の引きこもり支援について

Q4-1

引きこもり支援の新たな選択肢として農園を活用しようということだが、今、藤沢市で行っている引きこもり支援の繋ぎ先はどんなところがあるか？

A4-1 (2/3)

(適切な支援に向けて)

- ・就労・働きたいということであれば、一緒に働く前の段階で、例えば、履歴書の書き方や色々な方々と会って話を聞く等そういったところと一緒にやっていく。
- ・社会福祉協議会の中に「社会参加事業」がある。社会福祉協議会の中で生じる「ちょっとしたお仕事」をお願いする。その方の得意分野を活かしながら（パンフレットの挿し絵を作成、手作業の得意の方であればちょっとした手作業）、社会参加の第一歩として本人の自信にも繋がるという事業が一つの受け皿となっている。

⇒次ページへ続く

7（藤沢地域）プレゼン後の質疑応答

(4) 藤沢市の引きこもり支援について

Q4-1

引きこもり支援の新たな選択肢として農園を活用しようということだが、今、藤沢市で行っている引きこもり支援の繋ぎ先はどんなところがあるか？

A4-1 (3/3)

(就労支援)

- ・ユースワークふじさわという就労支援機関に繋ぎ、自立支援プログラムで就労サポートを行う。
- ・農業に興味があったり農業界に就職したいという方は、農スクールが農家と繋ぐ取組みをしている。出口は農家への就職という形になる。

(本事業の位置づけ)

- ・農福連携の話の中で、色々な多様性や当事者の特性に合ったやりたいことができることを寄り添いながらやるという意味では、色々なオプションが必要で、(本事業は)野外で作業するという有力なツールの一つである。
- ・ひきこもり状態だった方が代表である団体（※2001年に設立された引きこもり支援団体「ヒューマンスタジオ」）とアドバイザー契約し、相談窓口をお願いしている。

7（藤沢地域）プレゼン後の質疑応答

(4) 藤沢市の引きこもり支援について

Q4-2

(A4-1を受けて) そこに繋ぐだけでは駄目であり、その人に応じた繋ぎ方が必要であるということか？

A4-2

- ・居場所がほしい、農家に就職したい、一般就労ではなく福祉的就労を目指す方々である。その方に応じたメニューはもともと農スクールで準備している。
- ・今拠点が藤沢だけになっており、それ以外の拠点を増やすという意味で次の展開として、トレーナーを育成していけば各地で（いわゆる藤沢より広域で）できると考える。

7 (藤沢地域) プレゼン後の質疑応答

(5) 自走化について

Q5

事業の継続性について、藤沢市の考えとしては、生活困窮等の資金・財源を再来年度以降も続けていくイメージか？

A5

(行政)

- ・行政としては、愛の輪福祉基金（※ふるさと納税関係の寄付金）という寄付金を活用した補助等の可能性もある。
- ・居場所づくりのための補助金として、「地域の縁側」事業という屋内のサロン事業のような形の補助体系もある。
- ・農スクールが今まで培ってきた実績があるので、居場所プラスアルファの踏み出し方というの也被えられる。

(農スクール)

- ・使わせていただいている畑は、もともと耕作放棄地であり、そこを管理費用として地主さんから寄附を頂いている。
- ・例えば、経済的な困っていないが引きこもってしまっている御家族や身の回りの方々に、運営のご協力ということでご寄付いただいたりしている。